

情勢報告

環境制御技術の成果をみんなあで共有！

－安芸地区環境制御技術普及推進会議及び実証成果発表会の開催－



安芸地区環境制御技術普及推進会議の様子

農業改良普及課は 7 月 9 日、J A 土佐あき本所において第 1 回安芸地区環境制御技術普及推進会議（農家代表 8 人）及び実証成果発表会（参加者 80 人、うち農家 35 人）を開催しました。

両会で農業改良普及課はナス、ピーマンでの環境制御技術の現地実証成果を説明し、成果の周知を図りました。推進会議では招へいた農家代表者から、ナス、ピーマン、キュウリ、花き類に関する試験研究や現地実証及び補助事業について、「効果を実感している」「さらに普及するには補助事業を継続して欲しい」といった前向きな意見や提案をいただきました。

引き続き、農業改良普及課では技術導入の推進とともに技術の早期確立に向けて取り組んでいきます。

穴内研究会ナス部会が今作の反省会を開催



病害対策について説明する普及指導員

6 月 25 日に穴内研究会ナス部会が穴内集出荷場で反省会を開催し、部員 20 人が参加しました。

農業改良普及課からは 4 月上旬の天候不順により 27 園芸年度に発生が多かったナスフザリウム立枯病を中心とした病害対策や環境制御機器等の情報を提供しました。また、J A からは環境制御機器の導入について、資材メーカーからは肥料や農薬、日射比例灌水装置について紹介がありました。生産者は、28 園芸年度は病害の発生を抑えたいという思いが強く、土壌消毒方法などについて熱心に質問がありました。

農業改良普及課は、今後も現地検討会や勉強会での技術情報の提供等を通じて部会活動を支援します。

環境制御技術導入を進めよう～羽根集出荷場ナス部会反省検討会～



自分とこでも収量増えるのか？

7 月 2 日、羽根集出荷場園芸研究会ナス部会は反省検討会を開催し、生産者 17 人が参加しました。

農業改良普及課室戸支所は、室戸市の環境制御技術導入農家の実証結果について、2 年続けて増収効果があったことを報告しました。併せて 2 戸の農家の灌水量実態調査の結果を報告し、「適正な灌水量を決定するには環境測定装置の導入が必要」と呼びかけました。その結果、新たに環境制御技術導入に興味を示す農家も出てきました。

今後も農業改良普及課室戸支所は、管内ナス農家に環境制御技術の有効性を周知し、収量増加と所得向上につながる技術として推進していきます。

情勢報告

めざせ、次作の収量 UP！安芸集出荷場園芸研究会総合部会



栽培管理について説明する普及指導員

7月3日、安芸集出荷場園芸研究会総合部会が安芸集出荷場で反省会を開催し、部員39人が参加しました。

農業改良普及課は品目別分科会のナス部会、ピーマン部会では、環境制御機器の導入状況の説明をしました。また、全体会では27園芸年度の栽培管理の反省点と次作への対応、新規就農研修への協力依頼を行いました。農業技術センターや担い手育成センターからは27園芸年度の実証試験の結果について報告がありました。参加者からは、天候不順による病害発生に伴う収量減を反省し、「次作は効果的な防除を行い、発表された実証試験の結果を参考にしながら収量アップにつなげていきたい」という意見がありました。

今後も農業改良普及課は、部会活動を通じて生産者の意欲を高めていきます。

幼稚園児が芸西村でピーマンの収穫体験&農業の勉強！

楽しそうにピーマンを収穫する親子
(JA土佐あき提供)

6月18日、安芸ブロック青年農業士会（芸西地区）が芸西村の生産者のほ場でピーマン収穫体験を開催し、芸西村立芸西幼稚園児・高知大学教育学部附属幼稚園児の計68人が参加しました。

農業改良普及課は収穫体験の後、村民会館で「芸西村の農業について」（芸西村の特産物は？天敵を用いた害虫防除とは？）授業を行いました。園児からは「ナスとピーマンの花を初めてみた。きれい」「天敵がおったら農薬はもう必要ない？」などの意見や質問があり、農業への関心を高めることができました。

農業改良普及課は、子供たちの食育や地域の活性化に向けた青年農業士の活動を引き続き支援していきます。

中芸オクラ部会がオクラ栽培先進地視察研修



土佐あきと土佐香美のオクラ生産者が情報交換

6月29日、JA土佐あき中芸オクラ部会がJA土佐香美管内で先進地視察研修を行い、オクラ生産者17人の参加がありました。農業改良普及課からは、中芸オクラ部会の栽培の概要等の情報提供を行いました。

オクラの栽培でもっとも問題になる施肥方法や風対策について、活発な意見交換が行われ、生産者からもたくさんの質問がでました。

JA土佐あき中芸オクラ部会とJA土佐香美オクラ部会は定期的に交流を行っており、今後も継続していく予定です。

農業改良普及課では、JA土佐あき中芸オクラ部会の栽培技術の向上を目指して、支援していきます。

情勢報告

酒米の品質向上を目指して（東川地区酒米研究会現地検討会）



昨年と比べての出来は？
いまのころはまあまあかなあ

6月22日、東川地区酒米研究会の生産者11名が参加し、5月末から6月初旬に田植を行った11ほ場の巡回を行いました。事前に聞き取った栽培概要をJAが報告し、農業改良普及課が病虫害等の発生状況を確認しながら、栽培のアドバイスをを行いました。巡回後は、JA東川事業所で農業改良普及課が各ほ場の講評を交えながら、今後の栽培管理の注意点や県内の水稻の生育状況・予察情報に基づいた今後の病虫害管理の周知を行いました。

酒米研究会では穂肥前の現地検討会を計画しており、農業改良普及課はJAと連携を取りながら、酒米の栽培技術向上を図っていきます。

就農支援チームの設置に向けて



就農支援チームの設置を部会で提案

農業改良普及課では産地提案型の担い手確保が円滑に進められるように、産地が求める就農者を募集する提案書を作成済みの安芸市において、関係機関と生産部会で構成する就農支援チームの設置を目指しています。

部会の役員会（安芸 7/3、穴内 7/2）や代表者との打合せ（赤野 7/13）で、市から提案書を紹介し、農業改良普及課から就農支援チームの設置を提案して、部会の協力を呼びかけました。その結果、前向きな意見が出る一方で、部会の役割がわかりにくい、といった意見もありました。

農業改良普及課は、今回の意見を参考にして、今後開催される総会等で提案と説明を行い、就農支援チームの設置に向けて部会の合意形成を図っていきます。

集落営農塾（法人化）の開催



法人組織と任意組織の違いは？

6月5日、農業改良普及課は奈半利町役場で集落営農塾（法人化）を開催し、管内の集落営農組織及び集落営農組織設立予定地域の代表等8人が出席しました。

高知県農業会議から講師を迎え、集落営農組織を法人化した場合のメリットやデメリット、任意組織との違いなどについて説明を受けました。出席者からは法人化の手続きや従事分量配当などの質問が出され、今後、法人化を目指していきたいという意見もあり、有意義な話し合いができました。

農業改良普及課は、今後も研修会や集落座談会などを通して、集落営農を推進していきます。

情勢報告

室戸市黒耳地区で鳥獣被害対策講習会を開催



「田畑の上手な囲い方」の DVD を上映

7 月 6 日、黒見地区で鳥獣被害対策講習会が開催され、集落の農家 10 人が参加しました。講習会は鳥獣対策専門員の呼びかけで開催され、市役所からも担当者が出席しました。

農業改良普及課室戸支所は、シカ・イノシシ防護柵の適切な設置方法について、DVD を上映して説明しました。市役所からは柵設置に対する補助事業の説明があり、参加者で検討した結果、補助事業を活用して集落全体を防護柵で囲むことを決定しました。

農業改良普及課室戸支所は、今後も鳥獣対策専門員と連携して、鳥獣被害対策について農業者を支援していきます。

平成 27 年度農業改良普及推進協議会の開催



環境制御について熱心に意見を述べる構成員

6 月 26 日、農業改良普及課は田野町ふれあいセンターで「平成 27 年度農業改良普及推進協議会」を開催し、農家の代表者や J A、市町村関係機関が参加しました。今後の普及活動に活かすため、平成 27 年度普及指導計画の重点プロジェクト、総合課題及び個別課題を説明し、協議会構成員（22 名）に意見を伺いました。

構成員から「農家が環境制御の数値化に慣れることが必要」といった環境制御の推進方法、集落営農組織の設立意向や担い手の確保等について積極的な意見や提案を多数聞くことができました。

農業改良普及課は、構成員の意見や提案を今後の普及活動に活かして行きます。

伝えたい内容をより明確に一写真表現技術の向上研修－



トリミングについて学ぶ普及指導員

7 月 1 日、安芸総合庁舎で普及指導員 19 人が参加し、写真表現技術の向上を目的に職場研修を行いました。

講師の松木技術次長から、「一目で伝えたい内容がわかる写真を撮る」ためのポイント説明があり、参加者それぞれが撮った写真を事例に、ねらいを明確にするためのトリミング手法について学びました。

普及指導員からは、「写真の切り取りの仕方がよくわかった」「ねらいを考えてトリミングしたい」との感想が聞かれ、普及活動を表現する手段として効果的な写真表現技術を習得することが出来ました。